

## 第 21 回:文化遺産

会長 田中 仙堂

岡倉天心は、『茶の本』で、「茶道は、毎日の生活でぱっとしない出来事に囲まれながらも、せめて美しいものを見つけようとあこがれる心が作りだした祭式である」と述べています。美しいものといっても、それは美術品に限ったことではありません。また、美しいものを見つけ出そうとする意識自体が、私たちの毎日を彩りあるものに変えていってくれると天心は説いているのだと考えて私はこのように訳しました。

文化庁が、2 月 22 日に、茶道や盆栽などの日本の伝統的な生活文化について、ユネスコ無形文化遺産への登録申請の対象として検討することを決めました。

そこで、「生活文化」とあるのは、文化芸術振興基本法の中で、茶道・華道・香道が生活文化として規定されていることに直接的には対応しています。しかし、「生活文化」の根拠は、日常生活を起点に茶道を定義した『茶の本』に溯ります。

同時に、茶道が「生活文化」たるのは、私たちの日常の心がけに支えられていることを確認しておきたいと思います。

茶道を日常に活かす、と言われても、毎日、懐石料理の献立を食卓に並べることではないと思います。日常の中で、何か一つでも美しいことを見つけようところがけることから出発すると考えています。

平成 29 年 5 月発行 会報「えんじゅ 91 号」掲載